

国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター ニュースレター

ラグーン

Lagoon

2024 .12
No.22

白化したサンゴのポリプ (撮影日：2024.8 場所：竹富島北東側)

はじめに

2024年の夏は、サンゴの大規模白化がニュースで報じられ、みなさんもすでにご存じかとおもいます。6月に台風が発生せず、7月・8月に八重山への台風の接近が少なかったことや、地球温暖化の影響で高水温（日平均水温が30度以上）の日が、過去に大規模白化があった年の夏よりも長く続いた事が原因として考えられます。

そこで、白化から回復しているサンゴや、完全に白化してしまったサンゴの推移を把握するために、サンゴセンターでは、12月に石西礁湖サンゴ群集の緊急のモニタリング調査を行います。白化したサンゴが、少しでも多く回復している事を祈ります。

のぞいてみよう！サンゴ礁の世界

～サンゴ礁にすむ生き物を紹介します～



オオアカホシサンゴガニ

サンゴガニ科サンゴガニ属

サンゴが分泌する粘液を食べて生活させてもらう代わりに、オニヒトデがサンゴを襲ってきたとき等、サンゴの天敵が来たときには、ハサミを振りかざして守ってくれる共生関係にあります。住処が無くなってしまったら困りますもんね。他にはダルマハゼ類や水色のデバスズメダイ、白黒の縞模様のミズジリュウキュウスズメダイ等が隠れ家として利用し、危険を察知するとサンゴの隙間に逃げ込みます。サンゴを観察する際には、共生関係を考えながら観てみると面白いですよ！

枝サンゴのすきまをのぞいてみると、白色に赤い水玉模様で2～3cm程のカニが顔をだしました。

リーフエッジのハナヤサイサンゴ類を住処にする、オオアカホシサンゴガニです。可愛らしいカラーリングでダイバーに人気です。

サンゴセンターの取り組み ～サンゴのモニタリング調査～

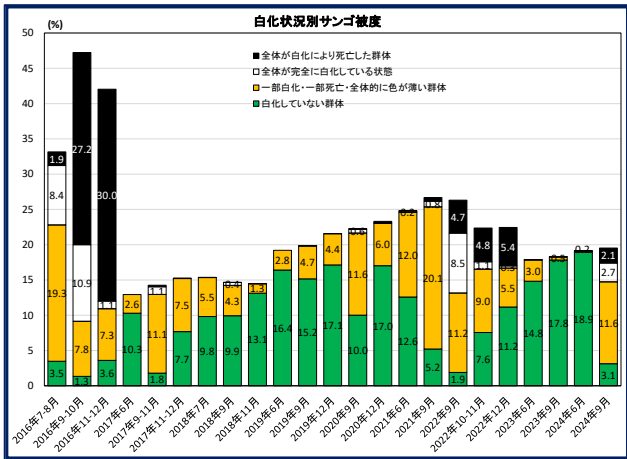
サンゴ群集モニタリング調査の結果から見た2024年夏の白化現象

サンゴセンターでは毎年、石西礁湖内の決まった31地点、同じ調査項目でモニタリング調査を行っています。石西礁湖では1998年の大規模白化が起きた後、本格的な群集モニタリングが実施されて以来、2007年に起こった大規模白化の被害が極めて深刻でした。近年では下の図1.で示されている通り2016年、2022年に大規模白化が起こってしまいサンゴ被度（サンゴが生育できる土台に対してどれくらいサンゴが被われているかの割合）が減少しています。サンゴ被度の回復は緩やかで回復に時間を要する事と、大規模白化が起こる間隔が短くなっている事で、サンゴ被度が白化前の状態に戻る前に再び白化してしまい、サンゴ被度が低下傾向にあると考えられています。

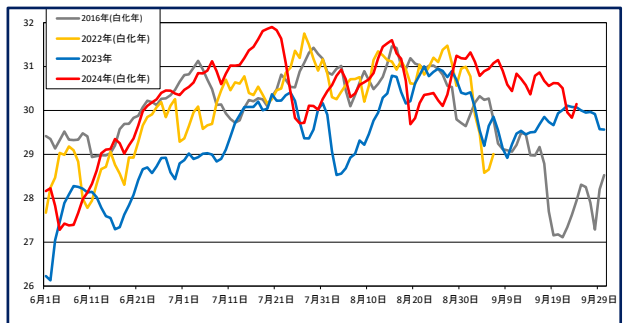
小浜島の東沖に設置し観測を続けている海洋観測モニタリングブイの海水温観測データ、図2.のグラフを参照すると、今年の海水温（赤いライン）が2016年（灰色のライン）、2022年（黄色のライン）よりも高かった事が分かります。残念ながら、9月上旬に実施したモニタリング調査によると平均白化率は84%であり、生態系に甚大な影響を及ぼす可能性があります。サンゴセンターでは、引き続き調査を行っています。



▲ モニタリング調査地点の白化の様子（黒島沖北東）

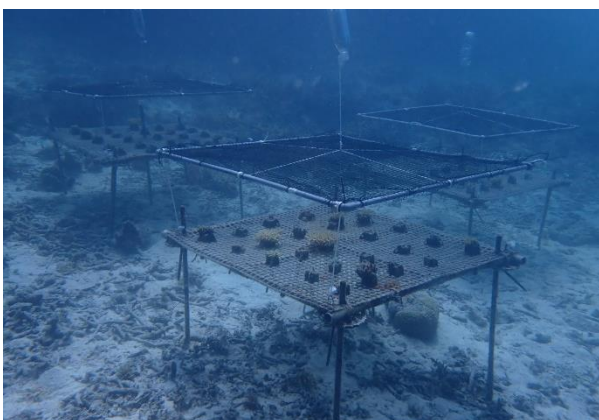


▲ 図1. 白化の状況と平均被度の変化



▲ 図2. 2016年-2024年における6月-9月の海洋観測モニタリングブイの海水温観測データ

サンゴ群集修復事業の進捗報告



▲ 育成中のサンゴ養成供給拠点の様子

2020年から新たに開始したサンゴ群集修復試験が5年目を迎えました。サンゴたちはぐんぐん大きくなっています。ただ、今年の夏は海水温が高く、一部で白化が見られました。これを避けるために試験的に水温が低い海域へ、一部を避難させました。その結果、避難させたサンゴはほとんど白化せずに夏を乗り切ることができました。今後は、5年間の試験結果を踏まえ、本格的な修復事業を実施する予定です。

名蔵湾が西表石垣国立公園に編入されました！(2024年3月28日)

2024年3月28日に、石垣島西部に広がる名蔵湾が、西表石垣国立公園の普通地域に編入されました。名蔵湾では、2014年に環境省と八重山ダイビング協会の調査により、国内最大規模のコモンシコロサンゴが発見されました。その後、九州大学の研究により、名蔵湾の海底には世界的に見ても珍しい沈水カルスト地形が広がっていることが明らかになりました。それを受け、環境省では九州大学と連携して2015年から2020年にかけて名蔵湾のサンゴ調査を実施しました。その結果、起伏の激しい海底に、水深50m近くまで良好なサンゴが生息していることがわかりました。名蔵湾のサンゴは、陸からの赤土流出等で消失したと考えられていましたが、現在でも良好な状態であることがわかりました。名蔵アンパル干潟や浅海域に広がる広大な藻場が、陸からの影響を軽減していると考えられます。こうした陸から海に至る貴重な一連の環境を保全し、末永く将来に残していきたいですね。



▲ 2024年2月に開催された名蔵湾シンポジウム



▲ 名蔵湾で発見された国内最大規模のコモンシコロサンゴ

パラオ国際サンゴ礁センター(PICRC)と連携した取り組み



▲ 集合写真



▲ 意見交換会の様子

2017年7月にパラオ国際サンゴ礁センター(Palau International Coral Reef Center:PICRC)と当センターはサンゴ礁生態系の保全に関する協力に係る覚書を締結しています。コロナ禍で交流ができていませんでしたが、今年3月にKoshiba所長・Tellei普及啓発部長の2名を石垣島に招待し、専門家や環境省職員・市役所職員との交流と、今後のサンゴ礁保全に関する連携について意見交換を行いました。意見交換の結果、次世代の教育・普及啓発を重点分野として協力する方向になりました。

また、今年10月には「GCRMN(地球規模サンゴ礁モニタリングネットワーク)東アジア地域ワークショップ」という国際的なサンゴ礁モニタリングに関する研究者間の情報交換がパラオで行われ、そちらにも当センターから職員が参加しました。PICRCも訪問し、Koshiba所長と再会することができました。今後も交流を続けていきます。

サンゴセンターの利用と普及啓発

2024年の利用状況
【研修会】
 竹富町内の小学校、県外の大学、JICA研修
 ▶内容：サンゴ、外来種、希少種、国立公園、レンジャーの仕事など
【中堅教諭等資質向上研修】 **【実験室の利用】**
 小学校教諭 調査研究
【施設見学】
 石垣市内の小学校、那覇市内の小学校
【施設利用】
 海の自然教室（小学校4年生以上一般参加）
 石垣市内の中学校

オオヒキガエルを小浜島で捕獲 ～特定外来生物について～

2024年5月、小浜島で特定外来生物である「オオヒキガエル」が初めて捕獲されました。オオヒキガエルは、1978年に人の手によって運び込まれてしまい、八重山では石垣島にのみ完全に定着してしまった外来カエルです。小浜島には、船で運ばれた物品等に紛れて、石垣島から入ってしまったと思われる写真の個体以外はまだ捕獲されていませんが、石垣自然保護官事務所では引き続き対策を行っています。もしも離島で発見した際には、環境省までお知らせ下さい。



◀八重山諸島の希少な動植物
密猟防止対策(空港PR)
 9月5日に新石垣空港にて八重山警察署・JALスカイエアポート株式会社・ANA沖縄株式会社・ばいぬしまきのこほくいんの皆さんと一緒に、到着した方々にパンフレットを配布して密猟防止のPRを行いました。

▼オオヒキガエル (特定外来種)



「展示スペース」がリニューアル！



サンゴ礁や西表石垣国立公園で見られる生き物、環境省の取り組みなどのパネルを新しくしました。写真や図などを多く使用し、わかりやすく説明しています。また、映像展示も取り入れ、八重山のサンゴ礁や白化現象、カムリワシ、イリオモテヤマネコの映像をご自由にご覧いただけます。この機会にぜひお立ちよりください。

発行元：国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター（環境省石垣自然保護官事務所）

国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターはサンゴ礁保全や環境保全についての取り組みをされる方はもちろん、どなたでもご利用いただけます。詳しくはウェブサイトをご覧ください。
 ▶<http://kyushu.env.go.jp/okinawa/coremoc/index.html>
 ご利用に際しては事前のお申し込みが必要な場合もありますので、下記までご連絡ください。

開館時間 8:30 ～ 17:15 〒907-0011沖縄県石垣市八島町2-27

休館日 土曜・日曜・祝日 Tel: 0980-82-4902 Fax: 0980-82-0279

利用料 無料 Email: coremoc@sirius.ocn.ne.jp

Website

